

母ちゃんは市議 (2期目)

でも演説をしていて、同じことを言っていた。本心から言っ

でも演説をしていて、同じことを言っていた。本心から言っ

「どうして？」
「鈴木やす子っていう人がいいよ」
「今度の選挙では誰に入れるの？」
とたずねたそうです。まだ決めていないと答えると、

「そんなふうには孫から言われたので、私も演説を聴かせていただきました。応援しますよ」

「そんなふうには孫から言われたので、私も演説を聴かせていただきました。応援しますよ」



21世紀初頭の重要な闘いに中央から上田耕一郎副委員長が応援に駆けつけてくれました。東京時代、康子が誘われて初めて演説会に行ったのが目黒公会堂で、そのときの弁士が上耕さんでした。

二年半前の六月、康子が市議会議員の補欠選挙に出ました。告示十日前の立候補表明で、次点に27票というわずかの差で食い込むことができました。そして昨年三月、日本共産党として初めて二人を立てて通常市議選に挑みました。四年前と比べ一・八五倍に票を伸ばして二議席を勝ち取ることができました。というわけで今、母ちゃんは市議会議員をやっています。たくさんのお孫さん、応援をいただきました。

たします。

第一に、誰でも乗れる市内巡回バスの1日も早い実現です。

第二に、子どもの医療費無料化です。小学校にあがるまでのお子さんの医療費無料化のために力をつくしてまいります。

第三に、教育環境の整備・充実です。子どもたちに「ひとり一人が大切なんだよ」と伝えるのは社会の責任であり、行政の仕事です。地元、明德小学校の改修を毎回の議会で取り上げ、立て替えに道を開くことができました。今後、地域に開かれた学校、校舎作りを提案してまいります。

第四に、介護保険の改善と、高齢者福祉の充実です。特に所得の少ない方への保険料・利用料の減額・免除制度は今すぐにでも必要であると考えます。

毎日の暮らしは大変で、忙しく過ぎていきます。その中で、とくに女性は、家計はもちろん、仕事、子育て、介護、ゴミのことから環境までたくさんの思いや願いを持っています。ひとつ一つを大切に、みんなで力を合わせれば、誇れる町にすることができると確信します。

街頭演説から

北海道生まれの私が、夫の故郷である北茨城市に移り住み、有機農業に取り組んで16年になります。皆さんの健康を守る方向でこそ農業も発展するし、街おこしにもつながると信じてがんばっています。

今の政治は、農産物を外国からどんどん輸入しながら、大幅な減反を押し付けるなど、日本の食料と農業をダメにしています。政治を大元からかえるしかないというのが暮らしの中からの実感です。

KSD汚職や機密費疑惑など、本当に怒りがわきます。そのうえ消費税増税までねらう自民党や公明党の悪政に対し、きっぱりした審判をくだそうではありませんか。

2年前の補選では大変お世話になりました。2人となった日本共産党市議団の申し入れで、批判の強かった議員のヨーロッパ視察をやめさせることができました。また女性によるまちづくり委員会を守りました。切実な願いである市内巡回バスも積極的に提言し、いま検討委員会が設置されています。

今回の市議選では、国保税値上げなど福祉切り捨てを認め進める議員を選ぶのか、それとも市政をチェックし、暮らしを守る議員を選ぶのかが問われています。

北茨城市政は、小山ダムなど大型事業で税金をムダづかいし、そのしわよせで市民いじめ計画を進めています。

お年寄りが楽しみにしていた敬老祝金が1千万円削られました。同じ年の予算で、市長と助役それぞれの専用車が計1千万円で購入されています。逆立ちした話ではないでしょうか。これに、日本共産党以外の議員さんは残念ながら賛成しています。市民の福祉を応援するのが自治体の本来の仕事です。市議選にあたり、次のお約束をい

